

ハード対策で安全・安心なまちづくり

河川改修やダム建設で水害を防ぐ

河川を整備するときには、過去の災害や周辺地域の人口などから想定される被害を基に備える雨の量を決め、河川改修やダム建設などから最適な組み合わせを決定し、計画的に進めています。

中島川の洪水対策

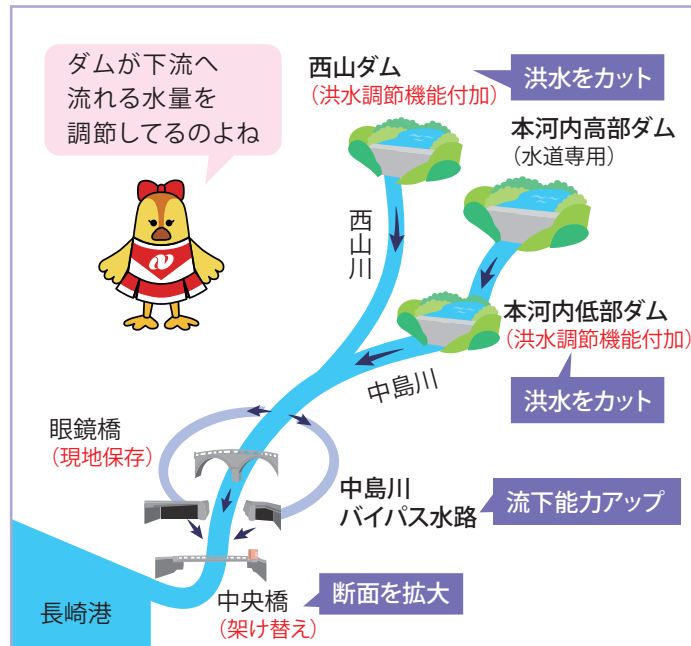
～長崎大水害と同程度(概ね200年に一度)の大雨に備える～

長崎大水害により中島川の周辺地域では、国指定重要文化財『眼鏡橋』が損壊するなど壊滅的な被害を受けました。

この大水害を受けて、河川改修とダム建設の組み合わせによる総合的な洪水対策を行いました。

- ① 下流へ流れる水量を減らすため、上流の西山ダムと本河内低部ダムに洪水調節機能を付加
- ② 安全に流れる水量を増やすため、護岸やバイパス水路の整備などの河川改修を実施

整備がほぼ完了した現在、周辺地域で大きな水害は発生していません



現在、県内で建設が進められているダム

周辺地域の皆さんの安全・安心な暮らしを確保するため、早期完成に向けて整備を進めています。

石木ダム(川棚町・県営)

川棚川の洪水対策と佐世保市の水源確保を主な目的として建設を進めています。

川棚川では、昭和23年の水害を受けて河川の改修などを行ってまいりましたが、これまで何度も水害に見舞われてきました。

そのため、河川改修とダム建設を組み合わせた総合的な洪水対策を行い、概ね100年に一度の大雨に備えることとしています。

地元の方々からは、近年、各地で頻発している大雨への不安から、石木ダムの早期完成を求める要望がなされています。



石木ダム完成イメージ

浦上ダム(長崎市・県営)

長崎市の水道専用ダムとして建設されましたが、長崎大水害を受けて、長崎大水害と同程度の大雨に対応することを目的に、下流へ流れる水量を調節できるよう県が整備を進めています。

本明川ダム(諫早市・国営)

本明川の洪水対策と河川環境保全等のための水量確保を目的として建設。昭和32年の諫早大水害により630名の犠牲者が出たことを受け、概ね100年に一度の大雨に対応するため、国による整備が進められています。



自然災害から生命・財産を守る

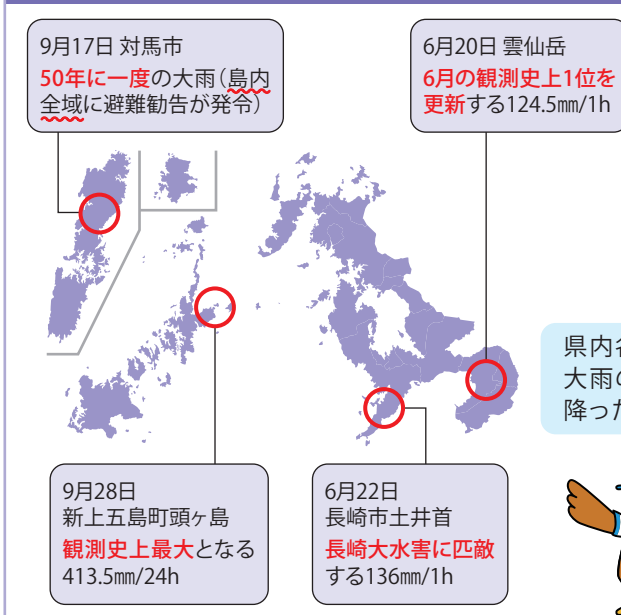
今年は、諫早大水害から60年、長崎大水害から35年の節目となる年です。こうした災害の経験を教訓に、梅雨期の大雨などに備える必要があります。



長崎大水害(S57.7.23)での被害状況



昨年、県内で観測された主な大雨



本県の地形は、海と山が近く、急な傾斜が多いという特徴があります。そのため、雨が降れば一気に海まで流れることから、土砂災害や河川の氾濫などが発生しやすく、多くの災害に見舞われてきました。

近年、全国各地で大雨による災害が頻発しており、昨年は、県内でも記録的な大雨が観測されました。いつでも起こりうる自然災害から県民の皆さんの生命と財産を守るため、県では施設整備などのハード面と災害に関する情報提供などのソフト面の両面から防災対策に積極的に取り組んでいます。

安全・安心な暮らしを守る